## TMATニュース第9号発行のご挨拶

TMAT 理事長
徳田　哲

日頃は格別のご支援を賜り有難うございます。NPO 法人 TMAT は 2005 年に発足し、今年で 9 年目を迎えます。前身の TDMAT 時代を含めると、19 年間で国内 9 回、国外 13 回の自然災害に対し緊急医療支援活動を行ってまいりました。その間「災害救護・国際協力ベーシックコース」をはじめとする研修会を通じ人材育成にも取り組んでまいりました。

昨年 11 月には、フィリピン中部地区を通過した台風 30 号による被害に際し、10 名の TMAT 隊員を派遣、401 名の急性期患者の診療を行う事が出来ました。また、この支援活動に対しフィリピン共和国保健省から感謝状の贈呈も決まりました。これも日頃の取り組みの成果だと感じております。

これからも「生命だけは平等だ」の理念・哲学の下、国内外の災害に備え迅速な活動ができるよう講習会や訓練を重ね、努力してまいる所存です。TMAT 活動へのご理解とご支援を引き続きお願い申し上げます。

TMAT 副理事長
福島　安義

平素より NPO 法人 TMAT へのご支援ご協力誠にありがとうございます。昨年 11 月に発生したフィリピン台風 30 号被害に対する医療支援活動では 10 名の隊員を迅速に派遣することができました。これも派遣にご協力頂きました病院長をはじめとする幹部の皆様のご理解あってのことです。改めて感謝申し上げます。

このような TMAT の支援活動はご支援くださる皆様からの会費、寄付金で行われております。より多くの方に TMAT の活動をご理解頂き、一人でも多くの方が「TMAT を支援したい」と思って頂ける組織作りをするため、平成 26 年 4 月より TMAT 東京本部事務局に専任の事務局員を配置し体制の強化をいたしました。多くの皆様からのご支援を頂き、またご意見に耳を傾けよりよい運営をしていけるよう努力してまいる所存です。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
# TMATニュース
www.tmat.or.jp　第9号

2014年(平成26年)6月1日発行

### HEADLINE

❶TMATニュース第9号発行のご挨拶
徳田哲理事長／福島安義副理事長
❶フィリピン台風被害　支援活動概要　❶TMAT会員募集広告
❷フィリピン支援報告
池原康一医師／村上楽医師／西村浩一看護師／佐藤晴彦薬剤師
❸フィリピン支援　診療報告
❸フィリピン保健省からの感謝状
❹日本災害看護学会・日本集団災害医学会
❹平成25年度　理事紹介　❹TMAT事務局紹介
❹TMAT平成24年度　事業報告

発行:特定非営利活動法人TMAT
〒102-0083　東京都千代田区麹町4-6-8 ダイニチ麹町ビル2F
TEL:03-3263-8136　FAX:03-5214-6664
E-mail:info@tmat.or.jp
担当:森孝(編集長、TMAT理事)

## フィリピン台風被害支援活動概要

平成25年11月8日から10日かけてフィリピン中部地区に上陸・通過した平成25年台風30号（Haiyan/Yolanda）は、同国レイテ島を中心に甚大な人的・物的被害をもたらした。NPO法人TMATではこの大型台風発生当初から情報収集を開始し、被害拡大の情報を受け平成25年11月12日に先遣隊5名を成田空港より派遣した。先遣隊5名はセブ島を経由し、レイテ島・オルモック（レイテ島西側）で情報収集を行ったのち、14日に最も被害の甚大であった同島タクロバン（レイテ島東側）に到着。情報収集の結果、タクロバンより南へ15kmほどになる町「タナウアン」のタウンホール仮設診療所にて診療活動を行うことを決定。翌15日より診療活動を開始した。同仮設診療所はタナウアン町長が統括をしており、同町副町長でもある地元医師が1階部分で内科診療を開始していた。

台風による爪痕（タナウアン）

TMATを含めた支援医療チーム（米国拠点NGOと合同で）は2階部分で外科診療を担当した。医療ニーズが引き続き継続していると判断し、16日には第1陣5名を派遣。17日に合流し先遣隊の活動を引き継いだ。緊急時医療支援の目的である急性期の医療ニーズは徐々に減少してきたため、21日で活動終了をすることを決定。23日に第1陣が帰国し活動を終了した。診療期間は7日間で401名の外科的診療（挫滅創、裂創、感染創の疾患に対して洗浄やデブリートマン等の処置）が中心であった。

ホールには診療を待つ多くの人々が押し寄せた

| 先　遣　隊　メンバー | | |
|---|---|---|
| 高力俊策 | 医師/隊長 | 湘南藤沢徳洲会病院 |
| 柳澤修平 | 看護師 | 四街道徳洲会病院 |
| 西村浩一 | 看護師 | 松原徳洲会病院 |
| 佐藤晴彦 | 薬剤師 | 中部徳洲会病院 |
| 萩原幹朗 | 事務 | 徳洲会東京本部 |

ブースを分け2診療で診察をおこなった

| 第　1　陣　メンバー | | |
|---|---|---|
| 池原康一 | 医師/隊長 | 中部徳洲会病院 |
| 村上　楽 | 医師 | 徳之島徳洲会病院 |
| 佐藤哲也 | 看護師 | 湘南藤沢徳洲会病院 |
| 濱田達也 | 看護師 | 湘南藤沢徳洲会病院 |
| 吉松栄作 | 事務 | 沖永良部徳洲会病院 |

診療活動を行ったタナウアンタウンホール

## TMATの活動は皆様からのご支援で活動しております。ご協力お願いいたします。

**正会員年会費**・・・・・・・・・・・ **10,000円**
**個人賛助会員年会費**・・・・・・・**2,000円**(1口以上)
**団体賛助会員年会費**・・・・・ **30,000円**(1口以上)

■振込みによるご協力

振込先口座
■郵便口座記号番号:00170-4-564249
■銀行名:ゆうちょ銀行　■金融機関コード:9900　■店番:019
■預金種目:当座　■支店名:〇一九(ゼロイチキュウ)店
■口座番号:0564249　■受取人:特定非営利活動法人TMAT

■クレジットカードによるご協力
**http://www.tmat.or.jp/donate_on_the_credit/**
※VISAカード、Mastarカードがご利用いただけます。

1995年の阪神・淡路大震災の活動を契機にスタートしたTMATは、十分に医療を受けられずにいる世界の人々を救うことを目的とするNPO法人(特定非営利活動法人)です。インドネシア・ジャワ島中部地震(06年)、ハイチ大震災(10年)、東日本大震災(11年)、フィリピン中部台風被害(13年)など国内9回、国外13回の災害に派遣をし医療支援活動を行っています。こうした私たちの活動は、企業・団体・個人の皆さまからTMATの会員として資金協力をしていただくことで支えられています。是非ご協力ください。

## 日本災害看護学会 第15回年次大会TMAT演題発表・ブース出展

北海道札幌市で平成25年8月22、23日、日本災害看護学会第15回年次大会が行われた。テーマは「災害看護～その多様性への挑戦～」。

NPO法人TMATから柳澤修平・四街道徳洲会病院看護師が、「被災地域における病院機能維持への取り組み～本当に必要な被災地支援とは～」と題して口演（口頭発表）した。

柳澤看護師は、2011年の東日本大震災でTMATが仙台徳洲会病院や気仙沼本吉病院（宮城県）の支援を行った様子を解説。その経験から、地域の中小規模医療機関の早期復旧の重要性を強調。医療が必要な被災者に全国の安全な医療機関に移動するよう求めたものの、「地元を離れたくない」との気持ちが強く、広域搬送がうまくいかなかったエピソードを紹介し、「震災時は大規模医療機関や避難所への支援に目が向きがちですが、中小規模医療機関の機能ができるだけ早く復旧することも、被災地を支援するうえで大変重要になります」と述べた。

そのうえで、解決すべき課題として「被災病院寄生型支援」を提示。これは、甚大な被害を被った施設や被災者が数多くいる避難所での支援を希望・イメージしていることから、比較的被害が小さい医療機関で通常業務と変わらない病院の病棟支援などに対して不満を抱く支援者が多発してしまうこと。実際に、柳澤看護師が支援に入った看護師に病棟支援業務を要請したところ「そんなことをしに被災地に来たのではありません！」と言われた経験を明かした。

柳澤看護師はランチョンセミナーの座長を務めた

柳澤看護師は、改めて広域災害でも被災地域で自己完結するための支援の必要性を説き、「中小規模の医療機関への早期支援と、活動時・災害各期における支援イメージが持てる教育の2つが不可欠です」と締めくくった。

終了後、柳澤看護師は昨今の支援の在り方では小中規模病院にサポートが回りにくい点を説明しながら、「TMATは民間の医療支援チーム。フットワーク軽くTMATの理念をそのまま被災地でも実行できるようにとの思いを込め、今回の発表を行いました」と振り返る。あわせて、自分が被災した時の対応についても考える機会となり、「病院のBCP（事業継続計画）について貴重な議論ができました」と手応えをつかんでいた。

柳澤看護師は「過去の複合災害から学ぶBCPと今後の課題」をテーマとするランチョンセミナーの座長も務めた。

また、TMATはブースも設置。2日間で80人を超える参加者が訪問し、TMATが実施している災害救護・国際協力ベーシックコースや過去の活動ぶりに熱心に耳を傾けていた。途中、同学会に参加していた気仙沼市本吉総合支所の三浦祐子・保健福祉課職員がブースを訪れ、東日本大震災時に本吉地区に入ったTMATから支援を受けたことに言及、「あの時の支援があったから今があります」と改めて感謝の気持ちを伝えた。

会場の一角にTMATブースを設置

## 第19回日本集団災害医学会・学術集会でフィリピン台風支援活動を緊急報告

第19回日本集団災害医学会総会・学術集会が平成26年2月25日から2日間、都内で行われた。テーマは「災害医学ー全ての医療者が学ぶべきものー」。同学術集会では、昨年11月に発生したフィリピン台風災害への医療支援をテーマとするセッションが急きょ設けられ、NPO法人TMATが当時の活動状況を報告した。

フィリピンにおける医療支援で、TMAT本隊（第一陣）隊長を務めた池原医師が登壇。昨年11月12日から2週間にわたる活動の様子を紹介した。

発表の途中で、池原医師は動画を用いて診療の様子を説明。屋根がブルーシートで覆われた状態だったため、雨漏りのなかで患者さんに対応したり、トリアージから治療・救急搬送までの流れを構築したりしたエピソードなどを披露した。

第1陣隊長の池原医師が登壇

池原医師は、「ホール前に救急車が待機し、重症患者さんをタクロバン市内の病院に搬送する体制づくりに貢献できたのは良かったと思います」と振り返り、活動期間中に約400人の診療に当たったことを報告。実際に行った診療内容では、デブリードメント（感染・壊死組織を外科的に切除すること）を含む創傷処置や、感染予防のための抗生剤投与が多かったと分析した。また今回の経験から離島災害における被災地へのアクセス確保の難しさを指摘。「日本も島国。各地で行政を交じえ真剣に考えていかなければなりません」と警鐘を鳴らした。池原医師は最後に現地で撮影した1枚の写真を紹介。半壊した建物の屋上に掲げられたメッセージ「ROOFLESS HOMELESS BUT NOT HOPELESS BANGON ORMOC!（屋根も家もないけど、希望は失っていない。がんばろうオルモック！）」を読み上げ、「日本も東日本大震災で同じような経験をしました。今後も続けて応援していきたいと思います」と締めくくると会場から大きな拍手が寄せられた。

### 第8期終了のご報告

特定非営利活動法人TMAT第8期会計年度（平成24年7月1日～平成25年6月30日）が終了いたしました。第8期（フィリピン支援は第9期）は幸いにもTMATが出動に至る大きな災害は発生いたしませんでした。今後も災害発生時に迅速に支援を行うことができるよう準備をしてまいります。引き続きご支援よろしくお願い致します。

特定非営利活動法人TMAT　事務局

**平成24年度　特定非営利活動に係る事業会計収支計算書**

平成24年7月1日から平成25年6月30日まで

| 科　目 | 金　額(単位:円) | |
|---|---|---|
| **Ⅰ.経常収入の部** | | |
| 1、入会金・会費収入 | | |
| 会費収入　正会員(10,000円×208口分) | 2,460,000 | |
| 賛助会員(個人)(2,000円×10口分) | | |
| 賛助会員(団体)(30,000円×12口分) | | |
| 2、特定非営利活動に関わる事業収入 | 1,887,500 | |
| 3、寄付金・補助金収入 | 1,765,105 | |
| 経常収入合計 | | 6,112,605 |
| **Ⅱ.経常支出の部** | | |
| 1、事業費(災害支援活動、講習会開催費等) | 983,182 | |
| 2、管理費 | 1,526,371 | |
| 経常支出合計 | | 2,509,553 |
| 経常収支差額 | | 3,603,652 |
| **Ⅲ.その他資金収入の部** | 0 | |
| その他資金収入合計 | | 0 |
| **Ⅳ.その他資金支出の部** | 0 | |
| その他資金支出合計 | | 0 |
| 当期収支差額 | | 3,603,052 |
| 前期繰越収支差額 | | 14,458,979 |
| 次期繰越収支差額 | | 18,062,031 |
| **Ⅴ.正味財産**増加の部 | | |
| 増加額合計 | | 0 |
| **Ⅵ.正味財産減少の部** | | |
| 減少額合計 | | 0 |
| 当期正味財産増加額(減少額) | | 3,603,052 |
| 前期繰越正味財産額 | | 14,458,979 |
| 当期正味財産合計 | | 18,062,031 |

### 特定非営利活動法人 TMAT 役員

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 理事長 | 徳田　哲 | 理　事 | 安富祖　久明 | 理　事 | 橋爪　慶人 | 監　事 | 原野　和芳 |
| 理事長代行 | 石井　一二 | 理　事 | 篠崎　伸明 | 理　事 | 清水　徹郎 | 監　事 | 三木　浩史 |
| 副理事長 | 鈴木　隆夫 | 理　事 | 板垣　徹也 | 理　事 | 前田　清貴 | | |
| 副理事長 | 福島　安義 | 理　事 | 大嶋　秀一 | 理　事 | 森　孝 | | |

### TMAT事務局員紹介

日頃よりNPO法人TMATの運営にご協力いただき誠にありがとうございます。NPO法人TMATの事務局業務を行っております担当者をご紹介いたします。

野口　幸洋（一般社団法人 徳洲会東京本部所属）
2007年よりTMATに関わらせて頂き、その間9回の緊急医療支援活動と36回の災害救護国際協力ベーシックコース運営に携わらせて頂きました。この度、東京本部事務局に籍を移し心機一転頑張らせていただく所存です。迅速かつ最良の医療支援活動が行う事ができるよう今まで以上の体制作り、運営を行ってまいります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

屋宜　盛仁（医療法人沖縄徳洲会 四街道徳洲会病院所属）
このたびTMAT事務局を務めさせて頂くことになりました屋宜盛仁（やぎもりひと）と申します。前職では自衛隊の衛生科の中隊救護員をしておりました。その経験が生かし、TMAT事務局としていかなる有事にも対応できるよう準備をしてまいります。未熟ではございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

TMAT事務局は東京事務局（東京都千代田区麹町4-6-8ダイニチ麹町ビル2階）と四街道事務局（千葉県四街道市吉岡1830-1四街道徳洲会病院内）を中心に運営をしてまいります。運営が円滑に進められますよう努力してまいりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

# フィリピン支援報告

## フィリピン台風被害の医療支援に参加して

中部徳洲会病院　医師　池原康一

2010年にTMATの講習会に参加して以来、災害派遣に参加するのは4回目になる。2010年1月ハイチ大地震、2011年3月東日本大震災、2011年10月トルコ東部地震、そして今回のフィリピン台風である。今回はTMAT事務局の依頼により、初めて隊長として派遣された。派遣先はレイテ島であった。報道されるほど治安は悪くなく、安定した場所で医療活動を行うことが出来た。台風により多くの家屋は崩壊し、ヤシの木はなぎ倒されていた。島全体のインフラ(水道、電気、ガスなど)は崩壊した状態であった。所々では異臭も漂い、まだ発見されていない遺体もあるのだろうと想像された。レイテ島で最も大きな都市タクロバンには各国から医療支援チームが参集しており、医療は飽和状態であった。我々のチームはタクロバンの南にあるタナウアンで医療活動を行った。タナウアンには病院がなくCity Holeに患者は集められていた。すでに多国籍からなる医療チームと我々TMATが外科系患者の治療を任された。多くの外傷患者であふれていた。すでに台風から1週間が経過しており、患者の傷は治癒傾向にあった。とは言え、傷は縫合さず開放創のままであり、筋肉や骨までが露出されている状態であった。また多くの患者に感染を併発していた。治療は創処置および抗菌薬の投与が主であった。またレイテ島自体の衛生環境が悪く、傷も深いため破傷風ワクチンの投与も行った。我々は5日間そこで医療活動を行うことが出来た。帰りにフィリピンの大使館の事務次官の説明によると、島全体の電気が復旧するまでには6か月ほど要するとのことであった。我々の現地での医療支援は終了したが、フィリピン台風被害の完全な復旧まで、物心ともに援助をし続けなければならないと思わされた。フィリピンの方々も立ち上がり始めていると考えらされた言葉がある。「ROOFLESS, HOMELESS, BUT NOT HOPELESS, BANGON PHILLIPINE」(屋根もない、家もない、しかし希望を失ってはいない。立ち上がろうフィリピン)。みんなで支え続けましょう。

## フィリピン・レイテ島の災害派遣に参加して

徳之島徳洲会病院　医師　村上楽

TMAT第1陣として2013年11月17日から21日までフィリピン・レイテ島の北東部タナウアンで外傷診療に従事し動た通り、台風の最中に受傷していたが、ずっと受診できず、1週間以上経って初めて医療機関にかかったという外傷患者がまだきていた。怪我した後も放置せざるをえなかった外傷のため、壊死や感染を起こしているケースが目立っていた。そんな中、ひたすら洗浄・デブリードメント(壊死部分の切除)を行った。隊として毎日60人前後の患者さんの創傷処置を行った。

傷を洗うきれいな水が無いこと、そして医療機関にかかれないことで、外傷がいかに悪くなるのかを今回私は知ることになった。壊死した足を切断する方が治療は早く簡単だが、後の人生には影響が大きい。しかし足を残すためにデブリードメントを少しずつ行うのでは処置の時間も手間もかかるし、創部感染からの敗血症で命を落とす危険も増える。切断できる施設に送るのがいいのか、それともここで粘って治療を行う方がいいのか悩むケースがいくつかあった。被災した町役場の一部屋が我々の陣地で、屋根がふき飛ばされていた。応急処置で貼られたビニールシートからは雨漏りするし、蛇口からは全く水が出ない環境であった。そこで働いていると、普段の徳之島の診療環境が夢のように思えていた。

はじめレイテ島に着いた時に、ここは全て壊れているのだと感じた。しかし現場でフィリピン人のボランティア達と働いて、人々が秩序を重んじ、助け合っている姿を垣間みた。建物はなぎ倒されていたが、地域の人のつながりは壊れていなかった。そして、フィリピン人の国民性なのか、このガレキの山の中でも生き残った人々が明るさを失っていなかったことに、私自身が励まされた。

私達の活動は、起きた災害の甚大さからすれば、ないに等しかったかもしれない。それでも、医療が必要な患者さん達がいて、わずかではあったがそこに医療を届けることができた。あれから4ヶ月、レイテ島はどうなっているのだろう。レイテ島タナウアンの街のことは忘れない。願わくは、また災害から立ち上がったタナウアンの街を歩いてみたい。

私の勤務する徳之島にとっても台風災害は他人ごとではない。そんな島の代表として災害派遣に参加できたのは、何より職場の理解があったからである。最後にこの場をかりて、送り出してくれた徳之島徳洲会病院の上山院長はじめ同僚達と、不便をおかけした島の患者さん方に感謝を頭したい。

## 初のTMAT海外派遣を体験して

松原徳洲会病院　看護師　西村浩一

平成25年11月8日フィリピン中部を大型台風が襲い、多数の死者が出ている。という情報がテレビやネットから僕の耳に飛び込んできた。まだその時は、「TMATは動くのかな〜」とまるで、他人事のように思うと同時に、普段から持ち歩いているパスポートを握りしめていた。10日いつも通りの休日を過ごしていると、1本の電話が入った。「フィリピン行が決定しそうだけど、行けるか?」。高鳴る鼓動を抑えつつ、上司に確認。結果は期待通りの即OK。ベーシックコースを思い出し、荷作りをして、見送ってくれる家族・職場のスタッフに感謝しつつ、翌日には、四街道徳洲会病院へ足を運んでいた。道中にはフィリピンの本を購入し、地形・建造り・宗教等の確認を

行った。

12日、先遣隊メンバーとともにフィリピンセブ島へ。情報収集をしなければいけないことはわかっているが、どのように行動していい分からない私は、先輩方の後を追うことぐらいしかできなかった。英語での情報収集・マネー交渉は、私にとって全てが新鮮で、全てが勉強だった。そして、行動しているのは、現地にいるスタッフだけではなく、本部で情報収集に明け暮れている隊員が支えてくれているということを知ることができた。

多くの島からなるフィリピンは、目的地(レイテ島タクロバン)へ入ることが困難であった。民間航空会社や現地の方の協力を得て、陸空海路を使用し、タクロバンへ向かった。タクロバンに近づくにつれ、車内では隊員の会話で、DOH・OCHA・クラスターミーティングなど聞き慣れない言葉が飛びかっていた。また体験したことのない、電気・ガス・水道が制限された日々。毎日変化する情報・目標に目が回りそうだった。しかし、高鳴る鼓動はやむ事は無く毎日が勉強で「充実」していた。

医療ニーズを求め、我々が辿りついた場所は、タクロバンから南へ下ったタナウワンという市だった。市長がシティーホールを開いており、現地のナース・他国のNPOチームが医療活動を行っていた。市長の許可を得、我々はこのシティーホールで外科系患者を診ることとなった。患者は気候柄、日常よりスリッパでの生活が多く、下肢の創感染を起こしている方ばかりだった。自分も被災者であるのに、他人を思いやる現地の方の行動には、頭が下がる思いで一杯だった。

今回、TMAT先遣隊を経験すると同時に、医療活動も行うことができた。私にとっては、人生の中で大きな経験であったと共に、これからのTMATへの活動意欲の元ともなった。自分の力足らずで迷惑をかけることもあったが、今後も国際災害医療について勉強し、TMATの一隊員として活動できるよう日々精進していきたい。フィリピン共和国の一早い復興を心から願います。

## 薬剤師としてのフィリピン支援活動

中部徳洲会病院　薬剤師　佐藤晴彦

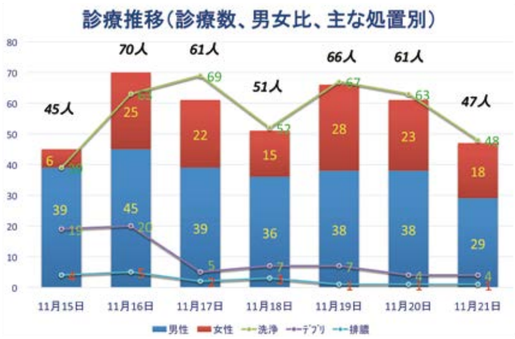
東北地方太平洋沖地震災害時にお世話になった感謝の気持ちを心に抱き、日本人の1人として被災地フィリピンに行ってまいりました。派遣時にはライフラインの他、交通手段の遮断により被災規模や医療ニーズ等の情報がありませんでした。先遣隊は目的や機動力の観点から、万が一の時に隊員に使用する必要最低限の医薬品しか持参しません。しかし今回は、派遣のタイミングから到着後すぐに医療活動を行う可能性があり、初期活動体制を整えられる医療品の選択に悩みました。そこで出発前に今まで経験させて頂いたミャンマーサイクロン水害やハイチ地震災害、トルコ地震災害派遣での処方内容を再確認しました。必要最低限ではありましたが、医療支援活動できる医薬品を選別しTMAT本部に要請しました。薬品調達に関しては、空港からの立地条件もあり四街道徳洲会病院薬剤部の薬剤部長をはじめ諸先生方には、無理な相談を快く受け入れて下さり大変感謝しております。

現地活動拠点の病院では、1日約100名の外科患者に対応するため大変苦労しました。先遣隊としての不十分な持参薬品量に加え、担当する疾患が外科に限られていたからです。活動中は常に残りの薬品在庫を確認し、処方量をコントロールしてもらいました。なかでも不足しがちだった鎮痛薬は、継続隊が到着するまで他のボランティア団体に交渉し分けて頂き、注射剤は必要に応じて高濃度の薬品を希釈調製しました。

海外医療支援活動では言語の壁を感じます。今回も投薬の際、そのような状況が考えられました。そこで、今までの経験から効能効果・服用時間・服用量等が現地語でわかるチェック式服薬指導シートを派遣までに作成し、1000枚ほど個人装備として持参していました。診療では初日からそれを使用し投薬していました。診療2日目になると、他のボランティア組織の方々に『患者様がこれを持っているが、この服薬指導シートは大変便利。GOOD!-JOB!』と言われました。後に、その人が提供したシートを使用し患者様に説明している光景を見て大変嬉しく思いました。被災地では日頃から準備してあったこのような工夫を最大限に発揮し活動して来ました。薬の調剤・監査や投薬、他団体の支援物資の選別だけでなく、普段の職場では機会のない外傷の洗浄や処置補助等もしました。

活動を行うにあたり中部徳洲会病院の職員をはじめ、数多くのご支援ご協力を頂き深く感謝しております。『大変有難うございました』。

## フィリピン支援診療報告




診療結果(7日間で計401名を診療)

## フィリピン保健省より感謝状

Republic of the Philippines
Department of Health
OFFICE OF THE SECRETARY

22 January 2014

DR. TETSU TOKUDA
Chairman, Tokushukai Medical Assistance Team
(Particle: Kokusaiseki Bldg. 2F) 4-4-8
Kojimachi, Chiyoda-ku
Tokyo, Japan 102-0083

Dear Chairman Tokuda

The Government of Philippines, through the Department of Health (DOH), would like to express its sincerest gratitude to your medical team's that was deployed in Tacloban, and Ormoc, Leyte from November 14 to December 21, 2013, in response to the call for emergency relief efforts for the disaster caused by Super Typhoon Yolanda (Haiyan).

In the midst of one of the worst natural disasters in history, the DOH appreciates your gesture of solidarity in this time of crisis. The DOH is deeply thankful for your steadfast support in providing much needed health care services and aid relief to the sick and injured Filipinos in Yolanda-stricken areas and communities. Together with the World Health Organization, we co-Chair for the Philippine Health Cluster, we greatly value the remarkable cooperation and coordination in the deployment and operation of your medical team.

Once again, please accept our profoundest gratitude and appreciation for your immense help and unwavering support to this time of disaster.

Thank you very much.

Very truly yours,

ENRIQUE T. ONA, M.D.
Secretary of Health

cc: Office of Asia and Pacific Affairs (APAC), Department of Foreign Affairs

平成25年11月に発生したフィリピン中部台風30号被害でNPO法人TMATが医療支援活動を行った事に対し、フィリピン保健省Ona保健大臣より感謝状贈呈が決まった。

TMATは活動に際し、フィリピン日本大使館への報告をはじめ、国連機関等への登録、報告も行った。